



モア通信 No.09

2016 年 3 月 3 日

必要な人につながるネットワークづくり

インターネットで外国人福祉委員養成講座が受講できます

<http://www.kyoto-more.net/hosyu.htm>

①養成講座での講義内容をこのページでの mp3 形式の音声ファイルで聴講してください。

②講義を聴講した後、**【WEB 補習レポート】**を提出してください。受講された講義の感想などをお書きの上、FAX または E-mail で送付してください。

③京都モアネット事務局で受講状況を確認し、すべての受講が確認されれば、外国人福祉員として登録。外国人福祉員登録証をご送付いたします。

第1回 京都モアネットについて～在日外国人に対する福祉のあり方とモアの設立～

第2回 在日外国人の社会保障の歴史、今後の趨勢と課題

第3回 京都モアネットの相談事例～外国人福祉員の必要性和活動内容について～

第4回 モアネットの目指すもの～インクルーシブコミュニティと多文化共生社会～

第5回 高齢者に対する理解～高齢者の尊厳と生きがい～

第6回 障害者に対する生活支援の理解

第7回 相談支援活動の心構えについて

第8回 今後の多文化共生社会のあり方と求められるもの

モアネット事務局 村木 美都子

私がモアネットの存在を初めて知ったのは、2008年4月。私の職場である「東九条まちづくりサポートセンターまめもやし」の事務所の移転先が、偶然モアネットの事務所の隣になったのです。隣の部屋からは、事務局の人と来訪者が朝鮮語交じりで話している声が時々聞こえていました。しかし、当時私は目の前の仕事、住民運動、子育てなどで頭がいっぱいで、モアのことにまだ関心を持っていませんでした。

それから約2年、突然、手伝ってほしいとある人から頼まれ、キャンパスプラザに足を運びました。2011年に行われた東九条・醍醐での中国帰国者・コリアン高齢者実態調査の打ち合わせでした。私はコリアンが6割という東九条にある市営住宅で生活支援をしており、ハラボジ・ハルモニたちから、普段何に困っているか、どんな思いを持っているかなどを聞いており、アンケート調査のメンバーとしてたくさんの家を訪問し、声を聞かせてもらいました。

あれから5年が経ちました。朝鮮総連・韓国民団の人たち、大学関係者、また、日々活動している外国人福祉員たちと一緒にずっと考えてきました。どうすれば外国にルーツのある高齢者や障害者たち、その中でも本当に支援の行き届いていない人や、孤独のうちにられる人たちに出会い、想いを受け止め、寄り添うことができるのか、どうすれば地域の民生児童委員、老人福祉員とつながることができるのか…。

関係機関や団体にパンフレットを配ったり、声をかけるなどの宣伝活動を続け、ようやく新たにコリアンのニューカマー問題が見えてきました。在日コリアンと結婚して日本に住むことになった朝鮮半島出身の女性たち。在日コリアンの夫が亡くなり、さまざまな理由で母国の親戚との関係が難しくなり、孤立しておられたのです。介護や医療を受ける必要が出てきましたが、日本語がうまくしゃべれず、専門職の日本人と会話が通じない、あるいは、簡単な日本語は分かっても、思いの根っこの部分がうまく言えず、周囲から理解されず疲れてしまった、そういった人たちと出会うことができたのです。

そこから見えてきたこと。それは、「思いを聞き続け」、「ネットワークを駆使し」、人々に「分かりやすく伝える」。専門職でも家族でもない私たちの役割は、間をつなぎ、あらゆるところと連携して支援する。そして、当事者たちの想い＝「ハート」を市民に伝える。それは、日々の地道な活動の継続で、簡単に結果は見えません。けれども、あきらめずに動き続けていれば少しずつ光が見えてきます。必要な人につながるためのネットワークづくり。この過程から得られることは、決してしんどいことばかりではなく、人間がいかに豊かでおもしろく、たのしい存在か、と分かってくることなのです。

総会報告

<総会の様子>



35 名の方の参加がありました

2015 年 7 月 18 日、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンにおいて、第 10 回総会が開催されました。

2014 年度活動報告と会計報告についてはともに承認されました。5、6 ページに内容を掲載していますのでご覧ください。

続いて、2015 年度事業計画案と予算案が読みました。今年度の活動の中心として、①外国人福祉委員の活動の充実させるべく、事務局と福祉委員とで振り返りや情報交換などを大切にする、②昨年度同様、「子育ては親育て・みのりのもり劇場」と協働で劇を作成し、啓発活動を進めること、③他機関と連携してネットワークを広げることにより、外国籍住民の支援の輪を広げることなどを伝え、事業計画・予算案共に承認されました。

次に、役員が紹介されました。今までからも関わっていただいていた、大阪人間科学大学准教授の石川久仁子さんを改めて運営委員としてお願いすることとしました。また、日常的に活動している事務局メンバーとして、南珣賢、鄭明愛、鄭英姫、村木美都子が紹介されました。

第二部 ① 外国人福祉委員活動についての紹介

<外国人福祉委員活動について>

事務局 村木 美都子



最初に、事務局の村木美都子から、外国人福祉委員活動について、設立経緯と活動内容について説明をしました。

2006 年に発足した京都モアネットの活動のきっかけとなったのは、無年金の外国人高齢者障がい者問題です。無年金状態に置かれた在日コリアンのために、京都府と京都市の「給付金」制度が発足しましたが、多くの当事者たちは受け取ることができませんでした。なぜなら、自分たち外国人は公的制度を利用できないと諦めていたり、読み書きができないために制度自体を知りえない、あるいはどうやったら利用できるのかが分からなかったのです。そこで、そういった在日コリアン 1 世や 2 世にアドバイスできるよう、また、さまざまな医療・福祉サービスが届けられるような支援のネットワークを構築するために、「京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モア」を設立し、京都市からの助成金を受けて「外国人福祉委員制度」をスタートしたのでした。

発足当初は、朝鮮語を話せる福祉委員が相談を受けたり、アドバイスするという活動が中心でした。しかし、その後徐々に支援の形が変化してきました。最近では、話し相手、介護保険などの公的サービスで利用できない部分の支援、わかりやすい日本語で制度を説明する、といった支援が増えています。

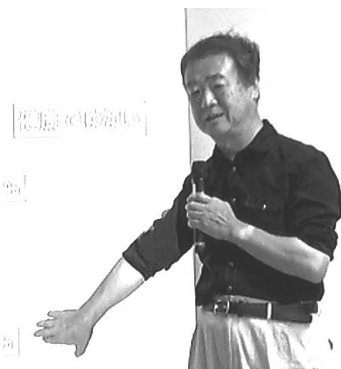
支援対象はコリアン 1 世から 2 世へと変化し、日本語がある程度話することができるために、言葉の問題は減りましたが、生きてきた背景や文化の違いを理解されずに孤立しがちなコリアンが増え、ゆっくり話を聴きながらさまざまな心の問題に向き合うことが必要になりました。

また、日本語を話せても、難しい行政用語や医療用語が分からないため、簡単な日本語での通訳が必要になってきています。

<今 外国人福祉委員に

求められているもの>

龍谷大学 岡野 英一氏



第二部 ②

「今外国人福祉委員に求められているもの」 岡野英一氏（龍谷大学教授）

続いて、京都モアネットの運営委員でもある、岡野英一氏より、今後求められる方向性について以下のようにお話をいただきました。

2011 年に行われた高齢者実態調査の報告（中国帰国者・外国人高齢者障害者生活支援研究会報告書：2013 年3月）によると、日本人に比べて、在日コリアン、中国帰国者は「健康でない」と感じている人が非常に多い、これは、身体的なことに加えて、精神的な面が大きいのかもしれません。また、在日コリアンは地域の世話役経験が殆どないことが分かりました。加藤博史氏はその理由を、「文化や習慣が違うコリアンが、役員を引き受け円滑にやり通す自信がない、ケアレスミスをからかわれて心の傷となり、役を担うことが苦痛」、ではないかと指摘されています。

今後は、そういった背景や思いを理解できる外国人福祉委員が、寂しさや満たされない思いを持つ当事者に寄り添い、同じ問題意識を持つ民生委員、老人福祉員、そして NPO、行政、大学と連携し、地域主体のネットワーク形成をはかることが重要だと岡野氏は話されました。

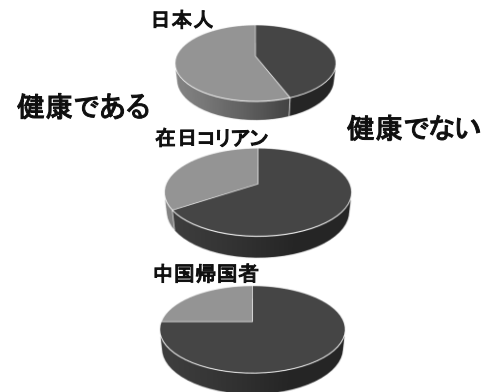
今後さまざまな外国籍住民に対して外国人福祉委員の新たな関わりのあるありようを明らかにしていく必要があるだろうとのことでした。

～グループでの話し合い～

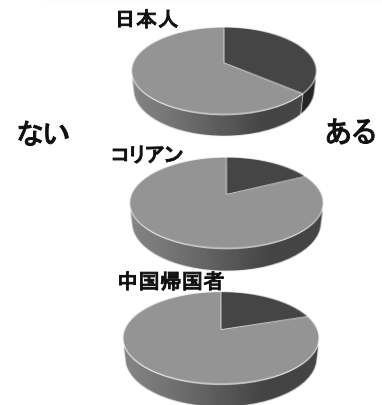
参加者は、現外国人福祉委員以外に、初めて参加された方、福祉関係者、朝鮮総連女性同盟のメンバー、行政関係の方など、さまざまでした。

- ・老人福祉員や民生委員など地域の役員さんと外国人とつながることで、当事者が安心できるのではないかな。
- ・背景や生活の違いを知る外国人福祉委員が、福祉専門職にアドバイスするような働きができないかな。
- ・外国人本人だけでなく、家族介護者への支援も大事。
- ・住民が外国人福祉委員のことをもっと知れば、支援が広がるかも。
- ・支援される当事者自身が私たちにしてあげたい、と思っていることがある。そういった本人の生きがいをモアは大事にしていきたい。
- ・専門職と、民生委員・老人福祉員・外国人福祉委員の連携によって、高齢者支援に重要な役割を果たせるのではないかな。

健康かどうか

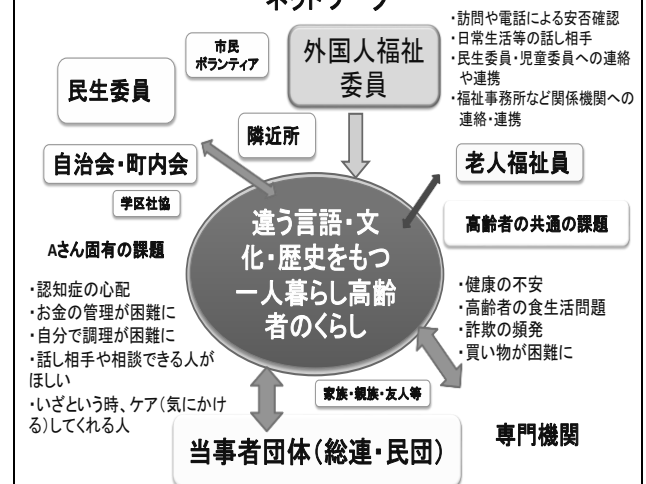


団体の世話役経験



自治会関係者と外国人福祉委員とは、
問題意識もセンスもとても近い

違う言語・文化や歴史をもつ高齢者を支える ネットワーク



外国人福祉委員養成講座(2015年3月7日) ～多文化を認め合える地域を目指して～



西大久保団地連合自治会井上さとみさんからのお話



「アジア希望の300」姜直子さんからの活動紹介



グループワークの様子

今回は、宇治市にある府営西大久保団地を中心に、中国帰国者との交流、共生のための地道な取り組みについてのお話、東山区にある「NPO 法人アジアの希望の300」から留学生による地域の高齢者支援について報告していただき、フリートークの時間を持ちました。

地域生活において、文化や生活の違う人との「共生」はたやすいことではないかもしれませんが、あきらめずにできることを続ける、その過程の中に、人が社会で生きることの大切な意味が含まれているのかもしれません。

① 西大久保府営団地での取り組み

1980年代から西大久保団地で中国帰国者の受け入れが始まり、現在は約1割が中国帰国者の世帯となっています。文化の違いや日本語の案内が理解できないなどの理由から、ごみの出し方等地域のルールが守れず、連合自治会が困っていました。そこで、2009年から1年半毎週1回帰国者たちに集まってもらって話し合いを続けました。さまざまな事情で話し合いは中止になりましたが、その後も通訳の相談役の人に協力を得て日々奮闘が続いています。最近では、行政による中国語のビラ作成などもようやく始まりました。大事なことは、受け入れる側の気持ちと受け入れられる側の気持ちがコラボして初めてスタートできるということ。この取り組みの中心になって動かれていた、故山田氏が残してくれた言葉、「花になるより土になれ」。この言葉を心に持ち続けながら、これからも共生のまちづくりに頑張っていきたいとのことでした。

② 「NPO 法人 アジアの希望300」

京都宣教教会が、留学生支援として立ち上げた「アジアの希望300」。留学生による地域貢献活動をと、高齢者訪問を始めたところ、孤独な高齢者がおられることに気づいたそうです。そのことがきっかけで、高齢者が気軽に集まれる場所「心と身体健康サークル」が始まりました。月2回、木曜日の午後教会1階のスペースに集まってもらって、ゲームをしたりお茶を飲んだり。最初はとまどいのあった高齢者も、元気な若者に囲まれて生き生きされるようになったようです。(現在 第2第4木曜14時～16時、東九条にある「ホーム光」で行われています)

外国人福祉委員の定例会を始めました～

第2か第3火曜日の午後3時～
介護保険、認知症などの勉強会や
日頃の活動の様子から、関わりの
ありかたについてなど話していま
す。興味のあるかた、大歓迎！



2014年度事業報告

支援内容内訳

1. 外国人福祉委員派遣事業

電話による相談対応、本人からの電話依頼や関係機関からの依頼により、自宅を訪問して安否確認や話し相手・傾聴、生き甲斐支援、そのほか必要時における支援を行いました。また、定期訪問の必要な、あるいは孤立しがちな対象者については、介護保険事業所やその他の関係機関と連携しながら見守りを行いました。本年度の活動件数は908件、25人の福祉委員が69人に対して支援しました。

2. 外国人福祉委員の研修

3月に福祉委員養成講座を行いました。西大久保府営団地で中国帰国者とのまちづくり活動を行っている連合自治会、東山区で留学生支援、留学生と地域高齢者を結ぶ活動している「アジアの希望300」から実践報告をいただき、外国にルーツを持つ方への支援のあり方について意見交換を行いました。

また、外国人福祉委員に対して、スタッフと随時振り返りを行いました。

3. 外国人福祉委員活動の整備・充実化に向けて

2015年1月に第8号通信を発行しました。

運営委員会をおおむね1ヶ月に1度行い、大学研究者も含め、活動の充実化に向けて話し合いました。また、長寿福祉課と随時連絡を取り合って進めてきました。

4. 外国籍住民理解に向けての啓発活動

2014年7月の総会終了後、龍谷大学短期大学部国際福祉コース開設記念セミナーに参加、「子育ては親育て、みのりのもり劇場」の協力を得て、在日コリアン1世の生活についての寸劇を行いました。日本人との生活や習慣の違いを、ハルモニの語りを通して知ってもらい、参加の学生や地域の方に観ていただき、日本人と在日コリアンの共生のありかたを考える機会となりました。この内容がNHKでテレビ放映され、広く市民に広報することができました。

また、10月には在日本朝鮮人医学協会西日本支部主催のホスピス研究会で「在日コリアン1世高齢者の生活、医療・介護を考える～人生の先輩のヒストリーを想いながら～」のテーマで同様の寸劇を上演し、ともに考える機会を持つことができました。

5. 他の外国人支援団体との連携

京都市国際交流協会の「外国人(現・多文化)支援ネット」や「ハナネット」に事務局メンバーが参加し、事業協力、外国籍市民や在日コリアン支援グループと情報交換を行いました。

市民フォーラム

認知症の人と楽しく暮らす地域とは

認知症の方も、長年暮らした地域で過ごしたいと願っておられます。こうした願いに応える地域のあり方は、どんなものでしょうか。京都市の取り組みや森俊夫先生の実践例を通じて、みなさんと共に考えます。さらに、地域力を結集させていく情報技術として注目されている「地理情報システム」について、地域包括支援センターと大学の共同研究の成果を報告。高齢者の見守りをテーマとした楽しい演劇ワークショップを実施します。

日時 平成28年3月26日(土)
13:30～16:00(13:00から受付)

会場 アバンティ響都ホール 校友会館

参加費 無料 申込 不要

司会 加藤 博史(龍谷大学)

13:30～13:50 挨拶 居内 学[京都市保健福祉局保健医療・介護担当局長]

13:50～14:20 I部 小澤 直[立命館大学教授]
「地理情報システム活用の有効性と展開」

14:20～14:50 II部 演劇ワークショップ
「あなたと今、出あった、パート2」
(NPO法人 子育ては親育て みのりのもり劇場+モアネット)

15:00～15:50 III部 森 俊夫[京都府立済南病院副院長]
医師と当事者「認知症の人と共に生きる」

挨拶 山下 治雄[京都市民生児童委員連盟会長]

	対象者	69
	外国人福祉委員	25
	活動件数	908
	延べ件数	2692
福祉サービス紹介・指導	介護	0
	受付相談	0
	サービス利用・内容	1
	その他	0
	生活保護	0
	高齢者福祉	0
	障害者福祉	0
	その他の保険福祉サービス	0
	小計	1
生活・生きがい等	生活相談	330
	家族関係相談	315
	人間関係相談	175
	生きがい相談(趣味活動)	148
	こころの相談	2
	安否確認	908
	言語・コミュニケーションの問題	4
	民族文化・歴史等の問題	85
	その他	10
	小計	1977
健康関係	健康(病気・体調)相談	459
	栄養食事関係相談	136
	病院受診・入退院手配など	0
	医療通訳	0
	その他	12
	小計	607
関係機関との連絡調整	区役所	5
	福祉事務所	0
	市民窓口等	0
	その他	0
	自治会(その他地域団体)	0
	民生委員/老人福祉委員	0
	社会福祉協議会	3
	ケアマネジャー・ヘルパー等	25
	その他	44
	小計	77
直接対応	連絡先	0
	病院・診療所への連絡	0
	ケアマネなど関係者連絡	15
	消防車出動要請	0
	警察への通報	0
	急病の世話	0
	家事手伝いなど	15
	その他	0
	小計	30
合 計(のべ件数)		2692

今年は「認知症」についての劇をします！それぞれの抱えている背景が違えば認知症症状も変わります。笑いあり、涙あり～是非お越しください～

京都モアネット役員

【顧問】

小澤 亘(立命館大学教授)
 金 尚一(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部委員長)
 河 相泰(在日本大韓国民団京都府地方本部団長)
 田中 宏(一橋大学名誉教授)
 鄭 禧淳(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ顧問)
 仲尾 宏(京都造形芸術大学客員教授)
 水野直樹(京都大学人文科学研究所教授)

【共同代表】

加藤博史(龍谷大学短期大学部教授)
 金 周萬(韓国民団京都府本部福祉事業推進委員会委員長)
 紫 松枝(在日本朝鮮人総聯合会山科支部委員長)
 朴 錫勇(札の辻診療所所長、
 NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ理事長)

【運営委員】

加藤博史(兼任)
 紫 松枝(兼任)
 金 周萬(兼任)
 朴 錫勇(兼任)
 岡野英一(龍谷大学教授)
 南 珣賢(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事)
 宋 基和(大韓国民団京都府地方本部南支部副支団長)
 石川久仁子(大阪人間科学大学准教授)
 金 洋子(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事)
 金 秀煥(朝鮮総聯南山城支部組織部長)

【会計】

金 洋子(兼任)

【会計監査】

崔 忠植(希望の家カトリック保育園顧問)

【事務局長】

鄭 明愛(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ理事)

〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町 12
 京都コリアン生活センターエルファ内
 京都外国人高齢者・障がい者生活支援
 ネットワーク「モア」(京都モアネット)
 TEL 075-681-2721/FAX 693-2555
 Email kyotomorennet@yahoo.co.jp
 郵便振替口座:00990-4-314429
 加入者名:京都外国人高齢者障害者
 生活支援ネットモア
 ♥支援カンパよろしくお願ひします♥

京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モア収支決算書

(2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日)

(単位:円)

科 目	金 額		
1、収入の部			
京都市助成金		1,120,000	
賛助寄付金	717,400		
個人会費	21,000		
団体会費	15,000	753,400	
雑収入	6,873		
預金利息	337	7,210	
当期収入合計 (A)		1,880,610	
2、支出の部			
1)福祉委員派遣事業に係る経費			
・報酬費	460,000		
・上記に関する交通費	32,730		
・連絡調整費	112,800		
・通信費	138,609		
・事務費	34,862		
・賃借料	600,000		
・水道光熱費	66,555		
・消耗品費	6,159		
・雑費	5,137	1,556,392	
2)福祉委員養成講座			
・講師料	10,000		
・連絡調整費	1,000		
・雑費	3,614	11,342	
3)啓発事業			
・通信費	5,576		
・活動費	24,000	29,576	
当期支出合計 (B)		1,597,310	
当期収支差額 (A)-(B)			283,300
前期繰越差額			764,840
次期繰り越し額			1,048,140

編集後記

▼みなさまお久しぶりです！年に一度の機関紙をやつと発行することができました。この一年、いろんな人たちとの出会いがありました。▼西大久保府営団地の近隣にある小学校では、祭りを通して、子どもたちが中国の文化や食の紹介をしているそうです。また、アジアの希望300の留学生さんには現在福祉委員としてコリアン一世のオモニ宅を訪問し一緒にご飯を食べたりしてくれています。▼つい先日、ニューカマーのコリアン女性の引越越しの際、業者の兄ちゃん、韓国の飾り物や食器を見て、すごいなあと興味を持ってくれました。▼日本の国際化はどんどん進んでいます。互いの文化を知り、尊重し、あるいは折り合いをつけながら、楽しく生きるためのお手伝い、続けます！▼三月二十六日、認知症フォーラムで劇します。観に来て下さいね。(み)